

トップ  
対談

聞き手／井野誠司  
(株)NCBリサーチ&コンサルティング 代表取締役社長

# 野田誠吾氏

北九州病院グループ 会長

## 看護の新時代を 北九州から

急激に進む高齢化、看護・介護の人材不足……  
政令指定都市のなかでも最も高齢化率が高い北九州市は  
近い将来、地域医療の持続可能性を揺るがす深刻な事態に陥りかねない。  
その問題の解決を目指して  
今年4月、北九州病院グループが西日本看護医療大学を創設した。  
最先端の医療技術を備えたシミュレーションセンターを備え、技術はもちろん  
一人ひとりの患者に寄り添う全人的看護が提供できる看護師を養成する。  
第1期生を迎えたばかりの大学の学長・橋爪誠氏にも同席いただき  
大学創設の意義、そして北九州病院グループが果たすべき使命を  
グループ会長である野田氏に伺う。

# 飛翔

2026

4

2026.4.15 vol.390



トップ対談

### 看護の新時代を 北九州から

北九州病院グループ  
会長 野田誠吾氏

グローバル経済の「いま」を読む

インフレは続くのか  
東京大学名誉教授 伊藤元重

中小企業が大躍進する「孫子の経営」

「感性」で客を呼び、  
「理性」で利益を残せ  
ハマモト経営代表／中小企業診断士 瀨本克哉

中小企業の財務・税務講座

所得税の「年収の壁」の拡大と  
社会保険の扶養ルールの変更

中田公認会計士事務所所長／公認会計士・税理士 中田和重

## 充実したシミュレーション教育

井野 ● 北九州病院グループに4月から西日本看護医療大学が加わりました。

開学おめでとうございます。第1期生80人の新入生をお迎えになられた今のお気持ちを聞かせてください。

橋爪 ● ありがとうございます。皆様方のおかげで、多くの方が待ち望んでいた看護医療大学が完成しました。小倉北区のJR城野駅北口から徒歩1分にある、北九州総合病院に隣接した6階建てのビルで、教室の大きな窓からは足立山が見え、閑静な佇まいのところです。そこに最先端の医療技術を備えたシミュレーションセンターや大講堂、将来の大学院の設置を見据えた大小のセミナー室、バスケットボールやバレーボールができる体育館など、充実した設備を完備しています。

この校舎に、いよいよ第1期生を迎えることができることは大変感慨深く、嬉しく思っています。大学説明会や入学試験での受験生全員の面接を通し、多くの学生が自分たちが当大学の第1期生になるのだと自覚し、開学を期待して待っていることを痛切に感じました。やっと皆さんの希望を叶えることができるという安堵感と、地域に貢献できる看護師さんに育てなければならぬという大きな責任を感じています。

大学の創設にご尽力いただいた多くの皆様方から感謝申し上げます。

井野 ● 入試は筆記試験だけという大学が多いです。指導教員はマジックミラーがついた隣の部屋からコンピュータを操作して、患者さんの呼吸や心臓の動き、心拍数や血圧などを変えられることで、様々な病態をシミュレーターで作ることが可能です。各学生が正確に患者さんを観察し、正しい看護計画を作成できたか、実際に患者さんの病態がどう変化していくか、一緒に経過を観察します。自分の実習風景を撮影し、その様子を大きなス

が、面接は御校の方針として導入されたのですか。橋爪 ● はい。筆記や学校推薦だけでは、その人の人間性がよくわかりません。我々としては社会に貢献したい人、やる気がある人、人を思いやる心を持った人、そういう方に来てほしいので、面接官の先生方にもそのような方針で採点してもらいました。

井野 ● 志願者は地元の方が多かったですか。また、志願動機で多かったのはどのようなことですか。橋爪 ● 志願者は北部九州が多いですが、大分や山口からも応募がありました。動機は、シミュレーション教育や、北九州病院グループとして実地の臨床の場をたくさん持っていることです。現実的なところをきちんと見て、

クリーンで繰り返し見ることができずし、ほかの学生の実習風景を見ることが可能です。臨床現場で実際に自分が働いているような臨場感にあふれた疑似体験を繰り返し経験できるのです。実習終了後にはクラス全体での検討会があり、みんなの前で実習の経過を報告し、人の意見や考えを聞きます。自分の何が悪かったのかを気づかせることが最も大事なポイントで、振り返り、フ

ードバックの学習となります。このように次の患者さんに向けての学修をすることで、自ら考える力や表現力、実践力、応用力が身に付いてきます。また、チーム医療で重要な

そのうえでここを選んだという方が多かった印象です。

井野 ● 今お話に出てきたシミュレーション教育とは、どういうことをするのですか。橋爪 ● 大学のシミュレーションセンターは、あらゆる疾病の病態をコンピュータ操作で再現できる高度の医療技術を用いたシミュレーター「SimMan（シムマン）」や、人体のすべての臓器や神経、血管、筋骨格系などをマイクロからマクロのレベルまで立体的に観察できる「ビジュアルヒューマン」のほか、ICUやER（外来救命救急室）などの部屋があります。全生徒が腰掛けて勉強することができるシアター形式の部屋で、中央が大きなガラスばりの壁で

協調性を養うこともでき、当大学が重きを置いている倫理観や人間性が自然に育まれていきます。

## 大学設立の理由

井野 ● 北九州病院グループは昨年5月に創立70周年を迎えられました。これまでの歩み、そして、このタイミングで看護大学の設置を決断された理由をお聞かせください。

野田 ● 当グループは1955年に現在の小倉北区三萩野で、50床の結核専門病院としてスタートしました。この70年間は平坦な道ばかりではありませんでしたが、現在は11病院、4診療所をはじめとして、63の施設を有し、職員数6400名にのぼる西日本有数の医療グループに成長しました。今までご指導・ご支援をいただいた皆様方、特に地域の皆様方に感謝申し上げます。

大学をつくるに至った一番大きな理由は、北九州市の急激な高齢化にあります。

2020年時点での北九州市の高齢化率は31.8%でしたが、2045年には37.8%に達すると予想されています。北九州は政令指定都市の中で最も高齢化率が高く、医療・介護需要の増大により、どこかの医療施設も看護人材の不足が大きな問題となっています。ある統計では、北九州市の看護師不足は、今現在でも6000から8000人程度というデータもあります。

また、国の方針として看護師の養成は専門学校から大学へという大きな流れがあります。北九州では看護系の大学は2校しかありませんでした。



西日本看護医療大学学長 橋爪誠（はしづめ・まこと）氏

1953年生まれ。九州大学医学部を卒業後、同大学院医学研究 院先端医療医学部門災害・救急医学分野教授、九州大学病院 先端医工学診療部部長、九州大学救命救急センター長、九州 大学先端医療イノベーションセンター長を歴任。2020年からは北九州古賀病院院長に就任。今年4月から現職。現在、九州大学名誉教授、学校法人創心会常任理事。



西日本看護医療大学前にて、右から橋爪学長、野田会長、弊社代表・井野





野田誠吾(のだ・せいご)  
北九州病院グループ会長

1959年生まれ。大分県出身。1983年に大学卒業後、福岡シティ銀行に入行。大分支店長、法人部長、長崎銀行専務取締役などを経て、2011年に社会医療法人北九州病院に入職。以降、専務理事、副理事長を歴任し、2023年より北九州病院グループ会長を務める。

概要

名称 北九州病院グループ  
本部 北九州市小倉北区室町3丁目1番2号  
https://honbu.kitakyu-hp.or.jp/  
設立 1955(昭和30)年5月  
社会医療法人北九州病院  
北九州中央病院  
北九州宗像中央病院  
北九州総合病院  
北九州八幡東病院(介護医療院併設)  
北九州古賀病院(介護医療院併設)  
北九州若杉病院(介護医療院併設)  
北九州湯川病院(介護医療院併設)  
北九州安部山公園病院  
北九州小倉病院  
介護老人保健施設あけぼの苑  
介護付有料老人ホームぬまみどり

関連法人

一般財団法人西日本産業衛生会  
社会医療法人福西会  
北九州ヘルスケアサービス株式会社  
学校法人創心会  
公益財団法人西日本奨学会  
進和興産株式会社  
北進産業株式会社  
社会福祉法人敬愛会  
社会福祉法人ふれあい

沿革

1955年 北九州市小倉北区白銀に北九州中央病院を設立  
1956年 北九州中央病院の名称を北九州病院へ、さらに医療法人北九州病院と変更  
2010年 国税庁より特定医療法人の認可  
2016年 福岡県知事より社会医療法人に認定。小倉北区東城野に北九州総合病院を移転新築開院  
2026年 西日本看護医療大学開設



北九州総合病院と西日本看護医療大学



西日本看護医療大学外観

「グループ力で地域の健康を支える」

井野 ● 地域医療を支えていく上で北九州病院グループの存在や影響力は大きいと思います。今後、どういう役割を担っていききたいとお考えでしょうか。

野田 ● 2025年は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となった転換期でした。すでに医療・介護需要は急増し、人手不足という厳しい現実に向かっています。

さらに、2040年には団塊ジュニアが高齢者になります。と同時に、労働者人口はそこから減少していきます。高齢化はピークを迎えるのに看護師は不足するという状況です。

また、最近、世界的な物価高騰や賃上げによりコストは上がってきています。しかし、公定価格である診療報酬はコスト上昇分を価格に転嫁できず、赤字に陥る病院が増えています。特に急性期病院については全国の7割が赤字経営で、地域医療の持続可能性を揺るがす深刻な事態です。この極めて厳しい経営環境のなかで、設備投資をしながら地域に貢献していくことが、我々に与えら

れた使命ではないかと思っています。当グループは、急性期病院は患者数・手術件数ともに維持向上に取り組んでおり、療養型病院においても、急性期病院だけでなく介護施設や在宅医療との連携を強固にする取り組みを継続して行い、病床利用率は高い水準を維持しています。今後も、安定した経営を維持しながら優秀な人材を育成していくことが、地域に貢献することだと思っています。

井野 ● 4年後からは、西日本看護医療大学から80人、西日本看護専門学校から50人、合わせて130人が毎年卒業していくわけですね。卒業生はグループ外の医療機関にも行かれるのでしょうか。

野田 ● 当グループのために大学や専門学校をつくらせているわけではありませんので、地域に広く旅立つてもらえればと思っています。

労働者人口の減少により、特に現役世代に対する予防医療の重要性はさらに高まっています。北九州病院グループで予防医療を担っている西日本産業衛生会では、年間50万人以上の健康診断を実施しており、働く方々の健康を守っています。

予防から医療まで切れ目なく繋がっていることは、地域の皆様にとって大きな安心になっていると思います。当大学は、優秀な人材の育成に留まらず、西日本産業衛生会の健康診断データを活用した研究を行い、その成果を医療現場に還元していくことも期待されています。近い将来ぜひ実現させ、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく自立して、健

康で安心して暮らせる社会の実現を目指していきます。

橋爪 ● 地域医療や社会福祉は、勉強すればするほど心もまた広がっていきます。地域貢献とはどういうものか、自分たちが今後どうしたいのかというところも学生自ら考えていくでしょう。そういう人間をつくりあげていくことが、グループのためにも、地域のためにも、重要なことだと思います。

野田 ● 大学の認可申請が非常に厳しかったので、大学をつくることにエネルギーを100%費やしてきました。けれど、大学ができた今は、これまで見えなかった遠くの景色が見えてきたような感じがしています。大学があることによって、いろいろなことができるようになるのではないかと思いい、会議でも、地域のためにこの大学を活かして成長させていってほしいと話しています。

「患者様のための医療 (for the patient)」という原点を忘れず、安心・安全で質の高い医療を提供することはもちろんですが、それに留まらず、予防医療や健康診断データを活用した研究と医療現場での活用、将来の医療現場を担う人材の創出など、グループ力を最大限に発揮し、地域の皆様一人ひとりの健康と安心を支えていく役割を、今後も変わらず担っていききたいと思っています。

井野 ● 本日は経営サイドと教育サイド、それぞれのお考え、思いをお聞かせいただきありがとうございます。

\*対談を終えて

井野誠司

新型コロナウイルス感染症第一波のさなだった6年前の今頃、金曜の正午に、市民が医療従事者に向けて感謝の拍手を送るという活動が自然発生的に始まりました。「フライデー・オベーション」です。この光景を見て、思わず一緒になって拍手した人も多かったと思います。未曾有のパンデミックの前に、人々の心が医療従事者に対する感謝の気持ちで一杯になったことが思い出されます。

当時、小学校を卒業したくらいの子供たちのうち選ばれし80人がこの春、西日本看護医療大学の門をくぐりました。ひととき大きな怒から差し込む日差しを浴びながら、授業と実習に励んでいます。

誰もが、住み慣れた地域で、その人らしく自立して健康に暮らせる社会を実現する——野田会長が掲げる理念を肝に銘じ、橋爪学長の下で心と腕を磨いた全人的看護師の誕生が待ち遠しいです。